

1月25日(月)~2月23日(火) 満月セレクト

— 今回のセクター ご紹介 —

Music Selector : 熊谷 悠一



熊谷 悠一

1980年京都生まれ。立教大学仏文科を卒業後、レコード店バイヤー、求人広告の営業、映写技師など様々な職を経て、選曲家/DJとして活動を始める。Inter FM「The Selector」で選曲、鳥取県米子市のDaraz FM「Anthology Radio」に出演。また、ピーター・バラカン氏の監修する音楽フェスティバル「Peter Barakan's Live Magic!」や、富山県南砺市のワールドミュージック・フェスティバル「スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド2015」などでDJを担当。あまり知られていなくとも自分が良質と思える音楽を紹介するよう心がけている。

今回のセレクトCD

1.



Shuggie Otis / Inspiration Information (Sony / 88691901782)

ミュージシャンの父親を持ち、自身も10代からプロのギタリストとして活動していたシュギー・オーティス。この作品は1974年の発表当時は見過ごされてしまったようですが、今世紀に入ってから再注目されました。ほぼ一人で作り上げたと言われる内容は、内省的とも繊細とも言える感覚があり、そのあたりが早すぎたのかもしれませんが。ゆったりとしたインストゥルメンタル曲も心地良いです。

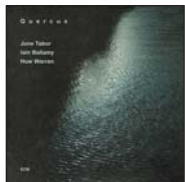
2.



Judee Sill / Judee Sill (Warner / WPCR-14869)

自作自演型のフォーク歌手ながら、ときに聖歌のようなクラシック音楽に近い響きも持つジュディ・シル。透き通った声が瑞々しい、1971年のデビュー作です。ロサンゼルスに生まれた彼女は特別な音楽教育を受けたことはないそうですが、独自のメロディや編曲には非凡な才を感じます。逆境にめげず結実させた楽曲の数々は、後年になってから生前以上に高く評価されています。

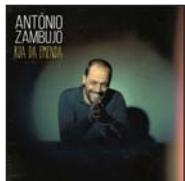
3.



June Tabor, Huw Warren, Iain Ballamy / Quercus (ECM / 602537245550)

英国を代表する女性歌手として、長く歌い続けてきたジューン・テイバー。凜とした歌声は唯一無二の説得力があります。ここではサクソのイアン・バラミ、ピアノのヒュー・ウォレンとともに、3人だけの静謐な演奏を聴かせます。穏やかでありながら、冬の朝の空気のようにピンと張った作品で、ライブ録音されたというのが信じがたいほどの完成度を誇っています(2013年発表)。

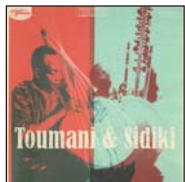
4.



António Zambujo / Rua Da Emenda (World Village / HMR-7077)

ポルトガルの男性歌手アントニオ・ザンブージョが2014年に発表した最新作。その柔らかな歌い回しがまず耳を惹きつけます。弦や管楽器もふんだんに用いた音作りは、どこか懐かしさも覚える暖かみがあり、色彩豊かです。とても聴きやすい曲ばかりの、洗練されたアルバムに仕上がっています。インターネットで見られる収録曲「Pica do 7」のビデオは、まるで短編映画のように鮮やかです。

5.



Toumani Diabaté & Sidiki Diabaté / Toumani & Sidiki (World Circuit / WCR-23116)

西アフリカの伝統楽器「コラ」は、ハープのような独特の澄んだ音色を持ちます。その名手として知られるマリのトゥマニ・ジャバテは、最新アルバムで息子シディキとのコラ二重奏に挑んでいます(2014年作品)。この親子の音楽的な対話は清々しい印象を受けますが、よく聴くと複雑なメロディやリズムも併せ持っていて、じっくりと耳を傾けて楽しむこともできる一枚です。